

住み慣れた町で安心して暮らし続けるために 活き生き鳩山シンポジウム



「年を取っても、安心してこの町で暮らし続けたい」——そうした誰もが思う願いに向け、町では現在、鳩山ニュータウン内に、福祉健康・多世代交流複合施設を整備し、「地域包括ケアシステム」の中核となる体

制づくりを進めています。その一環として、3月19日、町ふれあいセンターで地域包括ケア研修事業「活き生き鳩山シンポジウム」(主催・地域包括支援センター)が行われました。

生活支援や安心なまちにつながる「居場所づくり」
基調講演には、東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師の



後藤純氏(写真①)が登場。「人生100歳時代を支える活力ある超高齢社会の作り方」と題して、いかに健康な期間を延ばすかや、虚弱になった後も安心して暮らし続けられるまちづくりをどう進めるかなどのポイントをお話いただきました。後藤氏は、「見ず知らずの人に生活の頼みごとはいづらひ。今後進めていく必要がある生活支援でも、カフェやサロンなどのよう



■満員となった会場。高齢化の進む鳩山町で、多くの方が「地域包括ケアシステム(※)」に高い関心を示していることが伺えます。参加者からは「医療や介護など専門的な部分はプロのサポートを受け、自宅が心の拠り所となるような老後にしたい」「居場所づくりの在り方を考えたい」などの声があがっていました。

※「生活支援・介護予防」、「医療」、「介護」など、状況に応じたサービスを、日常生活圏で概ね30分以内に受けられる環境のこと。

■当日は、彩西療養通所介護鳩山の関口良子施設長、鳩山松寿園東館の篠田哲朗施設長、町地域包括支援センター職員も参加し、様々な角度から議論を深めました。

シンポジウムで語られた 主な意見・提言

- ◆介護施設に入居したら「おしまい」という時代ではない。生活リズムを取り戻し、また自宅に戻る。施設を在宅介護の拠点にしていく時代。
- ◆介護施設の閉鎖的なイメージを変えていくため、家族や地域の人たちが気軽に立ち寄れる場所にする必要がある。
- ◆鳩山町に「療養通所介護」のサービスがあることは、大きな資源。
- ◆行政は、生活や移動の基盤を整備することが主な役割。ソフト面は住民が主となって担う分野。
- ◆健康長寿のためには、病院などで指摘されたらすぐ対策のための行動を取ることが重要となる。
- ◆自宅に往診にきてくれる医療機関は少ない。「かかりつけ医」を作り、信頼関係を築いておくことが大切。
- ◆自宅で親を看取った経験がある人は少ない。今後の在宅医療を進めていくためには、より当事者意識を高めていくことが必要。そのために、本音で語り合える人脈づくりが重要となる。



りやカフェやサロンなどのよう

りやカフェやサロンなどのよう

高齢化の先進地として 期待される住民の力

総合司会を務めた東京藝術大学の藤村龍至氏(写真②)は、「鳩山ニュータウンの高齢化率は全国でもトップクラス。ある意味で先進地として、皆さんの力が試されている。全国のモデルとなるよう、住民の皆さんがより当事者意識を高め、元氣なまちづくりに積極的に関わっていく必要がある」と訴えました。

スポーツと芸術に見る 心のバリアフリーの育て方

だれでも楽しめる
スポーツ「ポッチャ」

3月27日、町民体育館で「2020年東京パラリンピック正式種目ポッチャ」を体験しよう」(主催・役場健康福祉課・オリーブの会(鳩山町障がい者



■ポッチャは、ジャックボールと呼ばれる白いボールを的にし、赤・青6球ずつボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに的に近づけられるかを競います。



障がいの垣根を超える
スポーツを多くの人に
講師を務めた三吉選手は、病気で体幹機能障害となり、移動は車いすを使っています。塞ぎこんでいた時期にポッチャと出

団体連絡協議会)。協力・埼玉県障がい者スポーツ協会・埼玉県ポッチャ協会)が行われました。障がいのある方や子どもなど、40人近くの参加者がポッチャ(球を的に転がし競うスポーツ)を体験。参加者はシンプルながらも戦略性が高く頭を使う競技の魅力を感じました。

会い、外に出かけ、人と会う原動力になったそうです。

「ポッチャに勇気づけられた」と話す三吉さんは、現在、小学校などでの講演やポッチャ体験会の講師など、精力的に活動しています。障がいの垣根を越えて、誰でも気軽に楽しめるポッチャの魅力が、多くの人に広まってほしいと願っています。

「道具も少なく、誰でもできる。でも頭も使うので、奥が深い」と楽しそうに語る参加者には、「ポッチャは障がい者が楽しむスポーツ」という意識はなかったかもしれない。

才能はだれにでも 「障がい者アート展」

地域には、障がいなどにより、様々な個性を持った人が暮らしています。そうした人たちに、もっと目を向けてもらおうと、4月2日〜8日の発達障がい啓発週間、4月2日の世界自閉症



■店内には、町内在住の作家、清水慶武さんや黒川文子さんらの作品が展示され、訪れる人に感動を与えていました。

啓発デーに合わせ、町内にある「グリーチョコキパン」(大橋)で、4月1日、2日「障がい者アート展」が開催されました。

企画した内野喜代子さんは、「障がいなどを持ちながらも、素晴らしい作品を生み出している町内在住の人たちの存在を知ってもらいたい」と話していました。障がいや自閉症のことを知り、一緒に考える。そうした気持ちのきっかけを育てる2日間となりました。

鳩山町障がい者福祉計画の策定に伴うアンケート調査にご協力ください

現在の「鳩山町障がい者福祉計画」の計画期間満了に伴い、町では今年度、次期計画を策定します。

策定にあたり、皆さまの日常生活の状況やご意見をお伺いし、計画策定の基礎資料とするためアンケートを実施します。アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

実施期間：5月下旬～6月下旬(予定)
対象者：平成29年4月1日現在、障がい者手帳所持者及び20歳以上の方(無作為抽出300人)
調査方法：郵送等による配布・回収
問合せ：役場健康福祉課 障害福祉担当
☎296-1241(直通) FAX296-3390(課専用)